

2019年度 信学会東堀保育園 「自己評価および園関係者評価」

1. 園の教育目標

園の中心テーマ「魅力あふれ 絆が深まるこども園」

・信学会幼児教育の新方針「子どもたちの主体的な学びと、他者との関わりで生まれる経験を通じて、生涯にわたり自ら学び続ける人間を育てる」を念頭に置いた園運営を行う。

2. 本年度の重点目標（重点活動）

- ①思いやりのある、心を大切に活動
- ②よく考え、豊かに創造し行動できる活動
- ③生活と関わらせ、育てて頂く食育の活動

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	A
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	A
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	A
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	A
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	B
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	B
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	C
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4. 学校関係者評価委員(モニター)からの評価

- 多くのモニター委員さんから、「信学会に移管してから、その方針に沿った園運営が実施できている。特に、保護者アンケートからも、子どもが楽しく園生活を送っている数値が増えている点が大きな成果」と出された。公立から移管して2年目の運営が良好であることが出された。
- さらに、園全体の目指す子ども像「(子どもが) 考え、決め、できる力の育成」の方向が話題となり、これからの保育であり、その実現に向けた保育士の努力や環境構成・援助の姿が評価された。今後も目指す子ども像を念頭に置き、教職員が一体となった保育になるように努めたい。
- 「トイレ掃除の業者委託」についての意見が出された。社会全体の「働き方改革」の話題がだされ、保育士の勤務時間や負担軽減が必要との話となった。本園では、基本勤務時間を守った運営に対して好評価を得たが、トイレ掃除の負担軽減は要望とし出された。本年度は、保護者会実施の「アルミ缶回収」で得た利益で行った。今後の業者委託をお願いしたい。
- 園の環境づくりや情報発信での意見が出された。特に、HP を生かした毎日のタイムリーな子どもの姿は好評であった。ラーニングストーリーのよさとも合わせ、「子どもの学びや成長」を保護者に分かりやすく伝える工夫が成果であった。また、園内環境づくりも、子どもの作品や遊びの充実等が伝わっている。課題とすると、保護者向けのチラシ（子育て情報・保育教育情報・地域情報等）の改善が求められた。この点は、保護者会のアルミ缶回収利益から、スタンドを購入し玄関に設置した。早速、多くの保護者に活用された。

5. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

- 保護者アンケート結果からも、園生活の良さが実感できる評価が増えている状況からも、中心テーマ「魅力あふれ、絆が深まるこども園」の理解が段々と進み保護者理解が進んでいると総括している。特に、本園の魅力（わくわくの日・専科・ひらめきコーナー・もぐもぐの日）が独自性を生み成果がでている。
流れとすると、①子どもにとって魅力ある取組が進む⇒②親に一日の楽しさを話す子どもが増える（自己肯定感）⇒③親が子どもの嬉しい姿から、園生活の充実を感じる（園で成長する子）⇒④子どもの成長を実感する内容のアンケートが増える（信学会の良さが伝わる）である。
この点を大切に考え次年度は、①の魅力ある取組をさらにバージョンアップすることが課題である。具体的には、異年齢活動の「わくわくの日」を《子どもが考え創りだす》活動へ向上させたい。
また、園全体の取組と各クラス・学年の活動（遊び）との連続を考えたい。
- 園の行事についての成果と課題が出された。特に大きな行事（運動会・発表会）での、「子どもが考え、行っている行事」の良さ。「参観者の人数が多いが、発表学年に応じた座席移動の配慮」等が成果として出された。この点は今後もさらに継続したい。課題としては、「子どもの技能向上や発表内容」の検討である。
今後、子どもを中心に置いた行事を目指しながら、子どもが「考え、より高い表現力」を求め、努力・達成できる保育を考え実現したい。
- 園の自己評価項目の、「地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握」した園運営は、なかなかできていない状況と言える。認定こども園としての役割でもある内容なので、今後必要な情報収集や機会の創出を図りたい。現在、食育を中心に、地域の「おひさまファーム（農業体験団体）」との交流を行っている。今後、子育て支援団体等との連携、合同企画等の関係を持ちたい。